

OECDエコノミック・アウトルック 101 概要
「世界経済見通し：改善、しかし十分ではない」

平成 29 年 6 月
OECD 代表部

6 月 7 日に OECD 事務局より公表された OECD エコノミック・アウトルック 101 の概要は以下の通り。

主要国・地域の実質 GDP 成長率見通し

	2016 年（実績）	2017 年	2018 年
日 本	1.0%	1.4% (1.2)	1.0% (0.8)
米 国	1.6%	2.1% (2.4)	2.4% (2.8)
ユーロ圏	1.7%	1.8% (1.6)	1.8% (1.6)
中 国	6.7%	6.6% (6.5)	6.4% (6.3)
世 界	3.0%	3.5% (3.3)	3.6% (3.6)

注；（ ）内は前回の経済見通し（中間経済見通し；3 月 7 日）の計数

（世界経済）

- ・ 2016 年の成長率は、2009 年以来最低であったが、長年にわたる弱い回復を経て、改善の兆しが見え始めている。貿易や製造業生産高の成長率は、アジアやヨーロッパのより堅調な内需に支えられ、極めて低い水準から上昇し、民間部門の信頼感（confidence）は向上している。
- ・ ただし、政策の不確実性は依然として高く、政府への信認（trust）は損なわれており、賃金上昇率は弱く、格差は根強く、金融市場には不均衡と脆弱性が残っている。
- ・ こうした中、世界の GDP 成長率は、2017 年は 3% 台半ばへと緩やかに上昇し、2018 年は同 3.6% と小幅に改善する見込み。

（どのようにして貿易を全ての人々に役立たせるか）（特別章）

- ・ 国際貿易は、世界経済の成長と国家間の生活水準の収斂の強力な原動力であり、経済的利益や貧困の縮小に貢献するとともに、新たなビジネス機会を創出してきた。しかし、格差の拡大や労働市場に関する懸念等を背景として、国際貿易への反発が強まっており、更なる保護主義が支持を得ている。
- ・ 嗜好、技術及び貿易のそれぞれの変化は活力ある経済を支える基礎的な力である。貿易を全ての人々に役立つものとするには、こうした嗜好や技術の変化の影響を受けやすい地域や労働者に対してより焦点を絞った政策が必要である。

（注）引用にあたっては必ず本文（英語）を参照いただくようお願いします。

(日本)

- ・ 堅調なアジア経済による外需や財政刺激策に支えられ、2017年の経済成長率は1.4%まで高まる見込み。2018年は、労働市場や生産能力の逼迫、及び高い企業収益が雇用や投資を下支えして経済成長率は1%程度を維持する見込み。金融緩和策の継続によりインフレ率は2017年末までに1%に達することが見込まれる。
- ・ 基礎的財政収支赤字は、2018年度対GDP比1%の目安を上回る見込みであり、消費税率の漸次引上げなど、財政健全化に向けてより詳細な道筋をたどる必要がある。

(米国)

- ・ 為替レート増価の影響が和らぐとともに、財政政策による下支えの影響が顕在化し、2017年及び2018年の経済成長率は高まる見込み。
- ・ 経済成長率の高まりとともに更なる利上げが見込まれる。中銀のバランスシート縮小も近々適切となる見込み。

(ユーロ圏)

- ・ 2017年及び2018年の経済成長率は $1\frac{3}{4}$ %程度と見込まれる。金融緩和策や最近の拡張的な財政政策により、内需は回復に向けた動きを続ける見込み。
- ・ エネルギー価格の上昇と成長率の高まりからインフレ率は上昇するものの、依然中銀の目標値を下回る見込み。

(中国)

- ・ これまでの財政金融刺激策、一帯一路等の地域開発イニシアティブによるインフラ投資の高まりに支えられ、2017年及び2018年の経済成長率は維持される見込み。

(以上)